

# 北海道の中1 静大衛星学ぶ

浜松

宇宙への夢、旭川市が支援

将来の夢に向け第一人者に会つたり関連機関で特別授業を受けたりするのを支援する北海道旭川市の事業の一環で、宇宙飛行士を目指す同市の中学1年高野晴さん(13)が27日、浜松市中区の静岡大浜松キャンパスを訪問した。同大工学部の超小型人工衛星の開発を主導した山極芳樹、能見公博の両教授から特別講義を受けた。

山極教授は、超小型衛星「ぱごも」が地上から宇宙ステーション上に人や物資を運ぶ宇宙エレベーター構想のために開発されたと紹介。高野さんは実験室も見学し「夢のような構想だとと思っていたが話を聞いて実現できそうだ」と感じ、わくわくした」と話した。同学部の超小型衛星開発は、本紙の記事をインターネットで読んで知ったという。

構想実現には強度の高いケーブルを宇宙空間で展開しなければならないなど課題があるが、開発技術は2050年ごろには整うと説明した。

(浜北支局・松浦直希)



山極芳樹教授(左)の実験室を見学する高野晴さん  
12月27日午前、浜松市中区の静岡大浜松キャンパス

